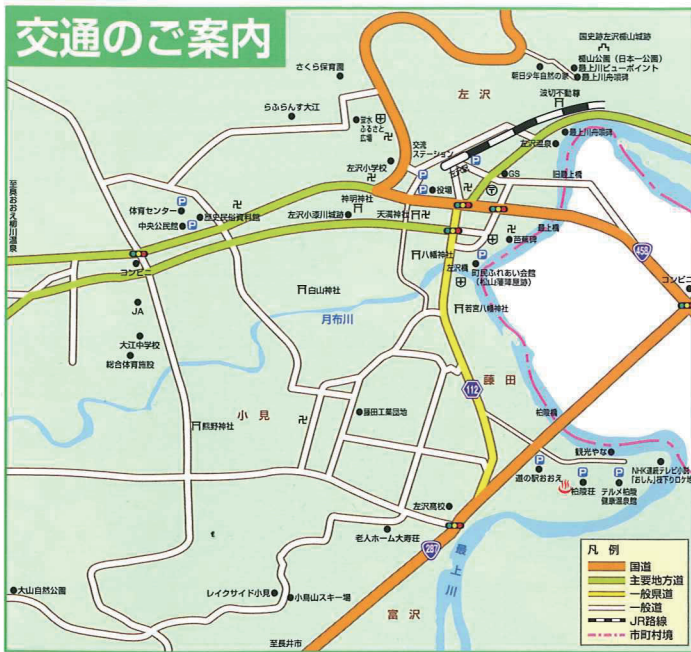


# 交通のご案内



# 国指定史跡 左沢楯山城跡

お車で	東京	20km 30分	浦和	東北自動車道	310km 3時間35分	村田	山形自動車道	67km 55分	寒河江	国道	9km 15分	大江町(左沢)
						JCT		IC				
新幹線で	東京駅	山形新幹線	2時間30分	山形駅	JR左沢線	45分	左沢駅					
		東北新幹線	2時間	仙台駅	仙山線	1時間						
飛行機で	東京	JAS	55分	山形空港	国道287・458号線	30分						
	大阪	JAS	1時間20分									
	名古屋	JAIR	1時間5分									
	札幌	JAS	1時間5分									

ETC 車載器搭載車 限定 寒河江サービスエリア スマートIC

お車で	東京	20km 30分	浦和	東北自動車道	260km 3時間	福島・飯坂	50km 35分	村田	山形自動車道	70km 58分	寒河江	国道	6km 9分	大江町
							JCT		SA	スマートIC				

※ETC車載器搭載車に限る  
利用時間：午前6時～午後10時

## お問い合わせ

大江町教育文化課歴史文化係（大江町中央公民館内）  
〒990-1163 山形県西村山郡大江町大字本郷丁373-1  
TEL/0237-62-3666 FAX/0237-62-3667  
E-mail/shakai\_k@town.oe.yamagata.jp

大江町教育委員会





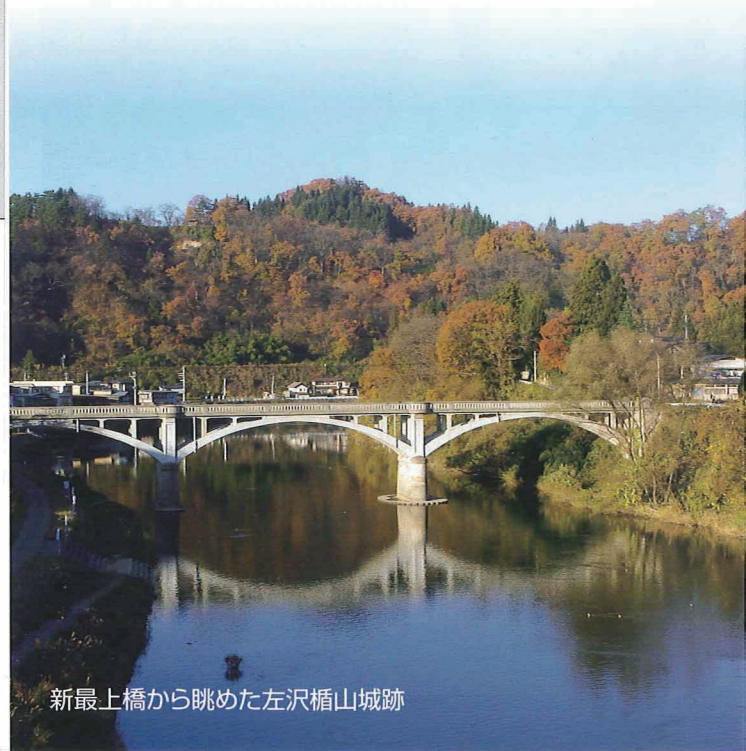
## 歴史

左沢楯山城は、左沢元時あてらざわもとときにより、14世紀後半に築かれたと伝えられます。左沢元時は、当時寒河江荘さかえのしょうを支配した大江氏の一族です。左沢を含む寒河江荘は文治5年（1189）大江広元ひろもとが地頭となり、その子孫に受け継がれました。左沢楯山城は、一族が南北朝の動乱の中で要所を固めたとき、天然の地形を利用して造られたと考えられます。

天正12年（1584）、最上義光もがみよしあきが谷地・寒河江を攻め、大江高基たかもとが貫見ぬくみの御館山おたてやまで自害、寒河江大江家は滅亡しました。このときから、左沢楯山城も最上氏の支配下に入ります。元和8年（1622）、最上家が改易となり、酒井家による左沢藩が成立。小漆川に新しい城が築かれ、左沢楯山城は廃城になりました。

## “大江”に臨む城 歴史を繋ぐ左沢楯山城跡

左沢楯山城跡は、平成21年2月12日、「村山地方の中世から近世に至る動向を知る上で貴重な城跡」として、国の史跡に指定されました。大江町では平成5年から、発掘や文献、縄張なわばりなどの調査をおこなってきました。調査を通して少しずつ、お城の姿や歴史が分かってきました。左沢楯山城跡は、地域の歴史を未来に語り継ぐ「町の宝」、大切な文化財です。



新最上橋から眺めた左沢楯山城跡



## 遺構

左沢楯山城跡では、地面に穴を掘って柱を立てた「掘立柱建物」の跡などが見つかっています。お城の一番高い場所「八幡座」の近くでは、縁側がついた格の高い建物跡が見つかり、中核をなす「主殿」と考えられています。城の東側「寺屋敷」と呼ばれる場所では、池のような石組の跡と建物の跡などが見つかりました。建物の跡は重なっており、同じ場所に何度か建てられたことが分かります。



建物や石組の跡(「寺屋敷」)



左沢楯山城跡で出土した陶磁器と石製品

## 遺物

左沢楯山城跡では、15世紀から17世紀の陶磁器などが出土しました。出土した陶磁器には、国産のものと中国・朝鮮半島産のものがあります。国産のものは17世紀の初期伊万里や波佐見の香炉、唐津の播鉢などが出土。中国産は白磁の皿(16世紀)や、景德鎮の染付皿(16世紀)など。県内の城館で3例目の出土となる朝鮮半島産「斗々屋」の茶碗(16世紀末～17世紀初)も見つかりました。

## 交通の要衝

左沢は近世、交通の要衝の地でした。桜町で最上川を渡る「山形往来」や、最上川に沿って置賜へ続く「米沢往来」、楯山の麓を通る「庄内往来」などの道が左沢で交差しました。道の先には、左沢楯山城があった中世、連携、または抗争した他領主の領地や、大江氏の拠点などがありました。左沢楯山城は、最上川に臨むだけでなく、陸上交通の拠点も押さえることのできる場所に造られていました。



「左沢御領内御絵図」(19世紀)



# 左沢楯山城跡縄張図



## 立地と地形



楯山城跡と直下を流れる最上川

左沢楯山城跡は、最上川の五百川峡谷出口に位置する楯山に造られた中世山城の跡です。置賜から北上した最上川は楯山にぶつかって、城の直下で大きく流れを変えます。最上川と楯木沢に面した城跡の北・東・南側は急峻な崖で、城の守りを見ることができます。「千畳敷」と呼ばれる場所からは、最上川を眼下に見下ろすことができます。

城跡内には、城として造られた地形が残っています。城は蛇沢を取りこんだ構造で、沢の南側の尾根には、「堀切」があります。段々畑のように見える「曲輪」と、曲輪と曲輪を隔てる防御、急な斜面の「切岸」は、城跡内のあちこちで見ることができます。



堀切の様子



曲輪と切岸の様子(「寺屋敷」)

## 城跡の植物

現在の左沢楯山城跡は、様々な植物に彩られています。樹木ではコナラ・クヌギ・オニグルミなどが分布。氷期の逃げ残りと言われる「イワナシ」や「ヒメサユリ」など、注目される植物もあります。城郭特有の植物といわれる「ヤダケ」や「シャガ」も見られます。楯山のシャガは5月頃、薄紫色の美しい花をつけます。春は「イヌザクラ」「ウワミズザクラ」の白い花が舞い踊り、夏は高木の木陰が広がります。秋は「ヤマモミジ」が紅葉し、冬は雪に閉ざされます。城跡には四季折々の景色と、豊かな自然環境が広がります。



ウワミズザクラ



シャガ